株式会社 DZHフィナンシャルリサーチ
東京都中央区明石町 8-1 聖路加タワー32 階

週間展望・回顧（豪ドル、南ア・ランド）

April 4, 2025

NZ ドル、RBNZ の金融政策に注目

◆豪ドル、RBA 声明文はややハト派な内容に
◆NZ ドル、RBNZ 総裁代行の下での金融政策に注目
◆ZAR、政局不安と米相互関税が重し

予想レンジ
豪ドル円　90.00-95.00 円
南ア・ランド円　7.50-8.00 円

4 月 7 日週の展望

豪ドルは上値の重い動きとなりそうだ。注目の米相互関税で豪州の関税率は 10%となった。相対的には低い関税率となったが、主要国が軒並み想定を上回る関税率となっており、世界的な景気減速や貿易紛争激化への懸念が高まっている。来週も関税絡みの報道に振らされる可能性が高いが、基本的にはリスク回避の流れが継続すると予想され、豪ドル相場の上値を抑制するだろう。

なお、豪準備銀行（RBA）は今週の金融政策理事会で市場予想通りに政策金利を 4.10%で据え置いたが、声明文で前回までの「追加利下げに慎重」との文言を削除するなど、ややハト派的な姿勢を示した。同時に RBA は「インフレ率が持続的に目標レンジの中間点に戻ることを確信する必要がある」との見解も示しており、注目は 30 日公表の 1-3 月期消費者物価指数（CPI）に移った格好だ。市場では同指数が上振れない限り、5 月に追加利下げが実施される可能性が高いとの見方が優勢。金利先物市場でもすでに 5 月理事会での 25bp 利下げをほぼ 100%織り込んでおり、豪金利の先安観が今後も豪ドルの重しとなる可能性はありそうだ。

隣国のニュージーランド（NZ）では 9 日に NZ 準備銀行（RBNZ）の金融政策が控えている。RBNZ では、オア総裁が 3 月 5 日に 3 年の任期を残して突然の辞任を発表。当初は今月から臨時総裁を置くとしていたが、臨時総裁は結局任命されず、当面はホークスビーRBNZ 副総裁が総裁代行として金融政策のかじ取りを担うことになった。現副総裁が代行するため金融政策方針に大きな変更はない見込みで、市場では 25bp の追加利下げが実施されるとの予想になっている。オア前総裁は前回（2 月 19 日）の金融政策決定会合時に「4 月と 5 月に 25bp の引き下げを想定」「年末までに政策金利は 3%程度になると予想」などと言及していたが、ホークスビー総裁代行の下でも見通しが維持されているか確認しておきたい。

南アフリカ・ランド（ZAR）は戻りの鈍い動きが予想される。市場全般に広がるリスク回避の流れが ZAR の重しになる可能性が高いほか、南アフリカに対する米国の相互関税率が 30%と高い水準に設定されたことも懸念材料だ。また、国内の政治情勢にも注意が必要。今年度の予算案を巡って、国民統一政府（GNU）で連立を組むアフリカ民族会議（ANC）と民主同盟（DA）の対立は一向に改善されず、DA はついに付加価値税（VAT）引き上げを阻止する書類を裁判所に提出。DA の GNU 離脱への懸念も高まっており、政局不安が ZAR 相場を押し下げる可能性もあるだろう。

3 月 31 日週の回顧

豪ドルは対ドルで強含んだ一方、対円では上値の重い動きとなった。2 日にトランプ米大統領が相互関税の詳細を明らかにすると為替市場ではドル売りが優勢に。豪ドルも対ドルでは買いが入ったが、対円ではリスク回避の流れが強まった影響から売りに押された。ZAR は対ドル・対円でいずれもさえない動き。南アで政情不安が高まっているほか、米相互関税で高関税率が課されたことも重しとなり、ZAR 円は昨年 8 月以来の安値水準となる 7.69 円まで売りに押された。（了）

本レポートはお客様への情報提供のみを目的として作成したもので、売買の勧誘を目的としたものではありません。実際に投資をなさる場合の最終ご判断は、お客様ご自身でご判断なさるようお願い致します。本レポートを原因とするお客様の直接あるいは間接的損失および損害については一切補償には応じません。 Copyright DZH Financial Research, Inc.